

原著論文

戦前日本の教科内容確立期における社会系教科課程の構造

—1891年小学校教則大綱に基づく「地理」と「歴史」の場合—

釜本 健司 人文学部こども文化学科

Structure of Social Studies Curriculum in Japan before world war II: A Case of Geography and History in the Curriculum Guideline for Elementary School in 1891

Takeshi KAMAMOTO (Faculty of Humanities, Department of Child Studies)

本稿の目的は、小学校教則大綱に基づく地理と歴史の教科課程の検討による戦前日本の社会系教科課程構造の解明である。分析の結果、地理と歴史の内容構成の共通性が国家公民的資質育成の保障にあることを明らかにした。その一方で、両者の内容構成の独自性を析出した。地理の場合は、環境拡大原理を採りつつ、地誌的アプローチと系統地理的アプローチを併用しながら日本と世界の地理的事象を網羅する構成にあった。歴史の場合は、天皇や政治・文化上の偉人に焦点を当てた人物史中心の日本通史を繰り返す内容構成にあったことを明らかにした。

キーワード：小学校教則大綱，社会系教科，教科課程，戦前日本

The purpose of this paper is to clarify the structure of “Geography” and “History” curriculum in elementary school in 1890s.

The result of analysis is as follows: These two subjects have a same object, which is to develop national citizenship. The Principle of “Geography” curriculum is expanding environment. “Geography” curriculum is designed by two different approaches. One is an approach of topology. The other is an approach of systematic geography. The Principle of “History” Curriculum design is the comprehensive history of Japan, which focus on the emperor and great persons.

Key Words: The Curriculum Guidelines for Elementary School, Social Studies, Curriculum Design, Pre war Japan

I 問題の所在

日本の学校教育における社会認識教育の内容は、どのような形で確立したのか。この問いに答えるには教科課程が国家レベルの規定力をもつ形で初めて定式化された時点の教育内容編成とその構造

を検討することになる。こうした問題意識から、本稿は、1891年に出された「小学校教則大綱」に基づく「地理」「歴史」の教科課程を分析し、その構造を明らかにすることを通して、国家公民的資質の育成を支える社会系教科教育課程の一つの典

型を示すことを目的とする。

小学校教則大綱による教科課程を取りあげる理由は、この教科課程によって「カリキュラム構成の基本が確立されており、この後はその修正という仕方では1941(昭和16)年国民学校令まで保持されることになるので、最も重視すべき」(水原, 1997: 344~345)と評価されているからである。

明治期の歴史教育や地理教育にかかわる主な研究には、吉田(1968)や海後(1969)、小原(1992)、岩田(1992)などがある。しかし、これらの研究の焦点は、いずれも教科書や教育方法・授業論にあり、教科課程の分析による考察という本稿の問題意識とは異なる。

また、戦前期の社会系教科に関する全体的構造に言及した研究には、池野(2003)、水原(1997, 2010)などがある。しかし、池野(2003)の研究は、戦前日本の全時期における社会系教科の学力論とその構造の考察することが中心としている。本稿のように1890年代の小学校における歴史と地理の両教科を統一して考察する視点から、教科課程に焦点を当てて検討したものではない。水原(2010)も、1890年代の地理や歴史について述べているが、教則大綱の目標・内容規定、それも尋常小学校を中心とした検討にとどまっており、具体的な内容構成に踏み込んだものではない。

教育勅語ができ、国民教育の確立に向かうこの時期の教科課程には、すでに「地理歴史ハ所謂兄弟ノ教科ニシテ二者相助ケテ国民的感情ヲ養成シ」(小池, 1893: 57)という形で、地理と歴史両者にある程度の一体性をもたせて捉える考え方がみられた。このことは、当時の教科課程にあっても、両教科を併せた検討の必要を示唆している。

なお、本稿における考察は、次の手順で進める。まず、この時期の小学校における教科の全体構成から社会系教科である歴史や地理がどのような位置を占めていたかを概観する。そのうえで、地理と歴史各教科の教科課程の内容を分析し、構成論理を解明する。これらの考察に基づいて、当時の社会系教科における資質育成を支えた内容構成論理に言及する。

II 教育内容確立期における社会系教科の位置

まず、当時の小学校¹⁾にはどのような教科がどのくらいの時間配当されていたのか。この問いに答えるため、1891年の改正小学校令で示された各教科の配当を示す。当時の小学校における教科の構成とその配当時間例は、表1のとおりである。

表1 1891年改正小学校令に基づく教科目の構成と教授時間の配当例

教科目 学校段階	尋常	高等
修身	3	2
読書	15	5
作文		2
習字		3
算術	6	5(4)
日本地理	/	4(3)
外国地理		
日本歴史		
理科		2
図画		2
唱歌		2
体操	3	3(2)
裁縫		(3)

[教育史編纂会(1964: 115)より筆者作成。表中の空欄は、随意科目を表す、()内の数字は女子のみの学級における教授時数を表す。なお、男女混成学級における教授時数は男子に準じ、「理科」「図画」「唱歌」を毎週1時間にする。]

表中空欄で示した随意(加設)科目が設定できるのは、毎週の教授時数の範囲が柔軟に設定されていたためである。なお、具体的な教授時数は、尋常小学校が18時間以上30時間以内、高等小学校が24時間以上36時間以内であった(教育史編纂会, 1964: 115)。

では、1891年当時の小学校の教科課程全体における地理や歴史に関する教科の位置づけはどうなっていたのか。まず、尋常小学校段階では、日本地理と日本歴史が随意科目として設けられたにとどまっており、必修教科目となるのは、高等小学校段階からであることがわかる。

社会系教科目が必修科目として位置づけられた高等小学校では、「日本地理」「日本歴史」「外国地理」の3教科目合わせて4単位時間が配当された。

さらに、この3教科目を合わせた4単位時間という配当時間数は、「理科」の2単位時間と比べる

と多く、「読書」「算術」の5単位時間に次ぐ大きなものである。したがって、当時の社会系教科は、むしろ高等小学校段階において、重要な位置を占める教科目(群)に位置づけられたことがわかる。

III 「地理」教科課程の構造

1. 小学校教則大綱における地理の目標と内容

1) 目標—生活に関する理解と愛国心の育成—

小学校教則大綱に定められた「地理」の教科目標および教科内容は、以下のとおりである。

日本地理及外国地理ハ日本地理及外国地理ノ大要ヲ授ケテ人民ノ生活ニ関スル重要ナル事項ヲ理解セシメ兼テ愛国ノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トナス (小池, 1893: 49)

この目標から、地理(日本地理・外国地理)は、日本や外国の地理についての知識の教授を通じた人々の生活に関わる重要な事項の認識と、愛国心の育成という国家公民的な資質の育成を同時にめざしていたことがわかる。

2) 内容—内外の地理的事象の網羅的教授—

では、「地理」の教科内容はどのように定められていたか。まず、尋常小学校(に加設する場合)の地理は、以下のような内容をもつものであった。

尋常小学校ノ教科ニ日本地理ヲ加フルトキハ郷土ノ地形位置等児童ノ日常目撃セル事物ニ就キテ端緒ヲ開キ漸ク進ミテ本邦ノ地形気候、著名ノ都会人民ノ生業ノ概略ヲ授ケ更ニ地球ノ形状水陸ノ別其他重要ニシテ児童ノ理解シ易キ事項ヲ知ラシムベシ (小池, 1893: 49~50)

このような内容規定からは、尋常小学校における地理教授は、学校や郷土の地理から始まり、日本の地形、位置、気候、有名な都市、人々の生活・職業、あるいは地球の形状や水陸の区別など様々な地理的事象の教授が意図されたことがわかる。重要で理解しやすい事項や、概略としての内容にしばられたことが特徴的である。

次に、高等小学校の「地理」にあつては、以下のような教授内容が構想された。

高等小学校ニ於テハ日本地理ハ前項ニ準ジテ稍詳ニ之ヲ授ケ更ニ地球ノ運動、昼夜、

四季ノ原由ヲ理解セシメ外国地理ハ大洋、大洲、五帯ノ別、各大洲ノ地形、気候、産物、人種及支那、朝鮮其他本邦トノ関係ニ於テ重要ナル諸国ノ地理ノ概略ヲ授ケ又学校ノ修業年限ニ応ジ既ニ授ケル日本地理ヲ復習シテ稍詳細ニ人民ノ生活ニ関スル重要ナル事項ヲ授ケ兼テ簡単ナル経済上ノ関係ヲ理解セシムベシ (小池, 1893: 50)

高等小学校の地理のうち、「日本地理」は、尋常小学校よりやや詳細に教授するのが基本となっている。また、新たに高等小学校から加わる「外国地理」は、海洋、地形、気候など自然地理的事象と、産物や人種といった人文地理的事象、および中国朝鮮をはじめとする諸外国の地理の概略を内容としている。さらに、修業年限が長い場合には、日本の生活に関する地理的事象、および日本における地理と経済の簡単な関係などもこれらに加えるべきとされた。

こうした内容の特徴は、次の三点にまとめられる。一点目は、学年の進行につれて、扱う環境を拡大しようとする志向が見られることである。これは、尋常小学校段階では、地域と日本の地理にとどまっていたものが、高等小学校段階では、外国にまで及んでいるところに現れている。

二点目は、全体を通して、自然地理的内容と人文地理的内容の両者を網羅した点にある。それは、高等小学校段階はもとより尋常小学校段階でも、位置・地形・気候などの内容と「著名ノ都会」、「人民ノ生業」という内容を含んでいる点に見られる。

三点目は、概略から詳細へというときに、既習の内容を詳しくするのみではなく、扱う視点をも増やしていることである。高等小学校段階で産物、人種、「経済上ノ関係」などが新たに扱われるようになることなどに現れている。

2. 地理教授細目における内容構成

次に、小学校教則大綱で示された「日本地理」「外国地理」の内容が、どのような形で教科課程に具体化されたかを検討する。その際、本稿では、府県レベルで出された教授細目における教科課程を検討する。

この方法を採る理由は、小学校教則大綱が制定

された 1891 年当時は、全国一律の教授内容基準である教授要目はまだ制定されていなかったからである。なお、本稿でとりあげる教授細目は、出版者の所在から東京府で使用されたと考えられる。

まず、尋常小学校段階「地理」の教科課程は表 2 のとおりである。この教授細目によると、地理は第 3 学年からの加設が構想されている。

表 2 小学校教則大綱に基づく尋常小学校段階における地理の教授細目

編成視点	学年	項目	
位置の基礎	第三学年	1 教場内器物ノ位置	
地図・場所の基礎		2 教場ノ絵ト図トノ区別	
		3 校舎ノ間取	
		4 学校敷地内	
		5 方角及学校近傍	
		6 地図ノ用方	
地図の活用		7 郷土ノ地理	
郷土地理		8 地理上ノ名称	
典型的な自然地形		9 市町村及郡国県ノ別	
行政上の区分		第四学年	1 日本帝国ノ位置及形状
日本の地理的位置			2 一畿八道
地理学習上の地域区分			3 山脈及地勢
山脈	4 大川及沼湖		
川・湖沼	5 沿海		
海	6 政府及地方庁		
行政機関	7 都市要港		
都市	8 気候及物産		
気候と産業の関係	9 陸路及水路		
交通	10 地球ノ形状		
形状	11 地球ノ大サ及名称		
規模・名称	12 水陸ノ大別		
地表の形態			

[教育評論社編 (1892 : 104-107) より筆者作成]

各学年の内容を概観すると、以下のとおりである。まず、第 3 学年は、学校や近隣・郷土についての地理が教授される。これは、場所・方角・地図など地理教授を理解するために必要である基礎的知識を授けることをめざしたものと見える。

次に、第 4 学年の「地理」は、「日本地理」教授と、地球に関する内容の教授の二つからなる。前者は、日本の位置、自然・地形、気候、行政機関、都市、産業、交通といった視点によって日本の地理に関する内容を教授するものである。後者は、地球の形状・大きさ・水陸の区別にふれるもので、地文の基礎に位置づけられる。

高等小学校段階の地理の教科課程は表 3 のとお

りである。第 1 学年は、位置・地図・郷土などといった基礎的な地理的視点の教授を内容としている。次いで、日本の地理を位置、地勢、気候、政治、都市、産業といった視点から概観した後、一畿八道の地域区分に基づいて日本地誌が教授される。この内容は、前半で学んだ位置、地形（山・川など）、気候、都市、産業という基本的視点に基づき、日本の地理的事象を総合的に把握する教授が意図されている。

日本地誌の内容の後、地球について学ぶ。これは、尋常小学校で学んだ地球の内容を、緯度、経度や気候区分などを含んで詳細化したものであるとともに、この後から始まる教科目「外国地理」の導入として位置づけられたといえる。こうした内容の後に、第 3 学年より教科目「外国地理」が教授される。「外国地理」は、大陸別地域ごとに世界を通覧する「世界地誌」と、日本と関係の深い外国の国々に関する「各国別地誌」の大きく二つの内容に分けられる。

「世界地誌」の内容は、オセアニア（日本以南の地域）を除けば、位置、地形、人口、気候、都市、産業を視点として教科内容が構成されており、第 1 学年で教授された基礎的視点を受け継ぐものである。「各国別地誌」の場合も、この基本的視点を受け継ぐほか、政治など「世界地誌」では取り込まず、国家という単位に規定された内容が教授されようとしたと考えられる。

第 4 学年では、日本地理が再び教えられる。ここでは、地利、人民、生業、産物、都会、道路、鉄道及航路、沿革（歴史）という視点で分析的に日本の地理を通観する系統地理的アプローチに通じる構成が採られている。ここでの視点の特質は、次の二点である。まず、地利以外の視点がすべて人文社会的側面をもつ地理的事象であることから、人間の生活に焦点を当てた内容構成が意図された点である。二点目には、生業、産物という形で「経済上ノ関係」の理解に関わる内容が拡充されていることがあげられる。

表 3 小学校教則大綱に基づく高等小学校段階における地理の教授細目

編成視点		学年	大項目	中項目	
地理的事象理解のための基礎知識 (位置・地形・産業・気候・地図)		第一学年	1 地理の端緒	(1) 位置	
日本地理の概観				2 日本説要	(2) 地図
					(3) 郷土
					(4) 水陸ノ区分
					(5) 気候
					(6) 産業
					(7) 邦制区割
			日本地誌		各地方の位置・地形・人口・都市・産物
(2) 東海道					
4 日本誌 (続)	(3) 東山道				
	(4) 北陸道				
	(5) 北海道				
	(6) 山陰道				
	(7) 山陽道				
	(8) 南海道				
地理の基礎	地球 地表 位置 地球の運動 気候・動植物の生態	5 地球説要	(9) 西海道附琉球		
			(1) 地球		
			(2) 陸及水		
			(3) 地理学上ノ位置		
			(4) 地球ノ運動		
(5) 五帯及動植物					
世界の民族概観		第三学年	6 各大洲誌	(6) 人民	
世界地誌	アジアの位置・地形・気候・人口・都市・産業			(1) 亜細亜大洲	
	ヨーロッパの位置・地形・気候・人口・都市・産業			(2) 欧羅巴大洲	
	アフリカの位置・地形・気候・人口・産業			(3) 亜非利加大洲	
	北アメリカの位置・地形・気候・人口・産業			(4) 北亜米利加大洲	
	南アメリカの位置・地形・気候			(5) 南亜米利加大洲	
オセアニアの位置・地域・都市	(6) 亜西亞尼亞大洲				
各国別地誌		7 連盟各国誌	(1) 亜細亜諸邦		
				(2) 欧州北部諸邦	
				(3) 欧州中部諸邦	
				(4) 欧州南部諸邦	
				(5) 米阿両洲諸邦	
		地理的整理 日本に関する系統地		自然地理	第四学年
人口・文化地理	2 人民				
経済地理	3 生業				
都市地理	4 産物				
交通地理	道路		5 都会		
	鉄道・航路		6 道路		
歴史地理	7 鉄道及航路				
	8 沿革誌				

[教育評論社編 (1892 : 147-160) より筆者作成]

3. 地理教科課程の内容編成論理

次に、教則大綱とそれに基づく教授細目の両者に基づき、尋常小学校段階と高等小学校段階両者の内容を通してみると、まず、尋常小学校段階から高等小学校第3学年までが、地理的事象を落ちなく網羅的総合的に把握することをめざす内容であり、高等小学校第4学年は、日本地理を分析的に捉えるという総合→分析という論理が、まず見て取れる。

総合的把握の段階における編成論理の特質としては、シークエンス原理として環境拡大原理が採られていることである。それは、尋常小学校段階では、「郷土ノ地形位置等児童ノ日常目撃セル事物ニ就キテ端緒ヲ開キ」、日本に関する内容を経て、高等小学校第3学年になると、外国地理が内容として含まれる。ここまですべてを全体としてみれば、学校→近隣→地域→日本→世界（地球）形でまとまっているからである。これは、身近なものから具体的事物を通して教授する開発教授法の影響を反映したものとされている（中川, 1978: 179~182; 水原, 1997: 352）。また、この段階のスコープは、位置、地形、人口、気候、都市、産業というものであり、小学校教則大綱に概ね沿うものであった。

分析的把握段階では、スコープが前述のように文化や経済に重点をおいたものとなっている。シークエンスは、自然などの見えやすいものから文物の形で見えることもある文化、経済、歴史と地理の両者にまたがる沿革誌という形で、事象の抽象度を上げるものになっている。自然事象から人文社会的事象へという傾向は、先の総合化段階にも見られ、地理科の段階的構成論理の一つである詳細化の方向性を示すものといえる。

IV 「歴史」教科課程の構造

1. 小学校教則大綱における歴史の目標と内容

小学校教則大綱における「歴史」は、「日本歴史」のみであった。その目標は、以下のとおりである。

日本歴史ハ本邦国体ノ大要ヲ知ラシメテ
国民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トナス
(小池, 1893: 56)

この要旨からは、国家統合の原理を知り、国民

としての資質としての志操を形成することが、「日本歴史」の目標となっていたことがうかがえる。

この目標は、愛国心の育成をめざした地理と同じように、歴史も国家公民的資質の育成を中心としたことを表している。

内容に関しては、以下のように規定されている。

尋常小学校ノ教科ニ日本歴史ヲ加ヘルト
キハ郷土ニ関スル史談ヨリ始メ漸ク建国ノ
体制 皇統ノ無窮 歴代天皇ノ盛業 忠良
賢哲ノ事跡国民ノ武勇文化ノ由来等ノ概略
ヲ授ケテ国初ヨリ現時ニ至ルマデノ事曆ヲ
授クベシ (小池, 1893: 56)

高等小学校ニ於テハ前項ニ準ジ稍詳ニ国
初ヨリ現時ニ至ルマデノ事曆ヲ授クベシ
(小池, 1893: 56)

ここから、尋常小学校段階、高等小学校の両者で教授される内容には、次のような共通性がある。まず、日本の建国から現在に至るまでの歴史が教授されるべきとされたことである。次に、皇統の無窮や歴代天皇・忠良賢哲・武勇の面で優れた人物や文化の由来というスコープである。

両者の間で異なるのは、教授される歴史的事象の詳細さの程度にある。その相違は、尋常小学校段階では概略が、高等小学校段階では詳細が教授されるというものである。

2. 歴史教授細目における内容構成

次に、小学校教則大綱で示された「日本歴史」の教科課程への具体化の様相を検討する。その際、前節の地理と同じように、府県レベルで出された教授細目における教科課程を検討する。

教授細目における尋常小学校第3学年から高等小学校の最終学年までの歴史の教授内容は、表4のとおりである。なお、表中の編成視点は、教則大綱を参考に筆者が付した。まず、尋常小学校段階の場合、歴史も地理と同じく、第3学年からの加設が考えられている。第4学年までの2年間をかけて、27項目が教授されるが、そのうち23項目で人物が主題となっており、人物史の様相が強い。しかも、取りあげられている人物のほとんどは、天皇や天皇中心の国家の発展に尽くした者である。

表 4 小学校教則大綱に基づく歴史の教授細目

編成視点	尋常小学校 3・4 学年	高等小学校 1・2 学年	高等小学校 3・4 学年
我が国の国体	1) 我が国	(1) 日本帝国	1 建国ノ体制
国の始まり		(2) 天照大神	2 神代ノ概略
初代天皇	2) 神武天皇	(3) 神武天皇	3 神武天皇ノ創業
			4 崇神垂仁ノ治
天皇(皇族)の盛業	3) 日本武尊	(4) 日本武尊	5 景行天皇及日本武尊ノ経略
天皇(皇族)の盛業	4) 神功皇后 漢学ノ伝来	(5) 神功皇后	6 神功皇后ノ三韓征伐
文化の由来		(6) 王仁来朝	7 文学技芸ノ興隆
天皇の盛業	5) 仁徳天皇	(7) 仁徳天皇	8 仁徳天皇ノ聖徳
天皇の盛業			9 顕宗仁賢ノ治
文化の由来		(8) 仏教伝来	10 仏法ノ伝来
天皇(皇族)の盛業	6) 聖徳太子 仏教ノ興隆		11 聖徳太子ノ聡明
驕臣の事例			12 蘇我氏ノ専横及滅亡
国家の発展過程			13 政治及制度
文化の由来			14 宗教及文学
文化の由来			15 生業及風俗
国民の武勇	藤原鎌足	(9) 中臣鎌足	16 大化ノ新政
天皇の盛業	7) 天智天皇	(10) 大化親政 (11) 天智天皇	
事変			17 三韓ノ叛乱
天皇の盛業			18 天武文武ノ政
国家の発展		(12) 奈良ノ都	19 奈良ノ朝
忠良の事蹟	8) 和気清麿	(13) 和気清麿	
天皇の盛業	9) 桓武天皇 坂上田村麿 弘法大師	(14) 桓武天皇	20 桓武ノ遷都及東征
賢哲の事蹟		(15) 伝教弘法	21 最澄空海仏法ヲ弘ム
賢哲・忠良の事蹟	10) 菅原道真	(16) 菅原道真	
驕臣の事例			22 藤原氏ノ撰関
天皇の盛業		(17) 醍醐天皇 (18) 村上天皇	23 延喜天曆ノ治
賢哲の事蹟		(19) 小野篁	24 遣唐使及留学生
国家の動乱			25 天慶ノ乱
制度の発達過程			26 中古ノ兵制
文化の由来			27 中古ノ学制
文化の発達過程			28 中古ノ生業
驕臣の事例		(20) 藤原氏ノ専権	29 藤原氏ノ檀権
文化の由来	11) 紫式部		30 中古ノ文芸
国家の動乱			31 前九年ノ役
天皇の盛業		(21) 後三条天皇	32 後三条天皇ノ親政
天皇の盛業			33 院庁ノ政
武勇の由来	12) 八幡太郎義家		34 後三年ノ役
驕臣の事例			35 僧徒ノ驕暴
国家の動乱		(22) 保元平治ノ乱	36 保元平治ノ乱
驕臣の事例	13) 平清盛 平重盛	(23) 平氏ノ専権 (24) 平氏ノ滅亡	37 平氏ノ興隆
忠良の事蹟	14) 源頼朝		38 源氏ノ興起
忠良の事蹟	源義経	(25) 鎌倉幕府	39 鎌倉幕府ノ創立
国家の動乱(事件)			40 承久ノ変
驕臣の事例		(26) 北条氏ノ執権	41 北条氏ノ執権
国家の動乱(事件)	15) 北条時宗 元寇	(27) 元寇ノ変	42 元兵ノ入寇
天皇			43 皇統ノ遞立
制度の発達			44 鎌倉幕府ノ制度
文化の由来			45 文学及技芸
文化の由来			46 宗教

文化の由来			47 生業及風俗
国家の動乱 (事件)			48 元弘ノ変
天皇の盛業	16) 楠正成 楠正行	(28) 後醍醐天皇 (29) 楠正成 (30) 楠正行	49 後醍醐天皇ノ中興
驕臣の事例			50 足利尊氏ノ叛
天皇の事蹟			51 南北朝ノ両立
驕臣の事例	17) 足利義満	(31) 足利義満	52 足利氏ノ盛世
国家の動乱 (事件)		(32) 応仁ノ乱	53 応仁ノ乱
武勇の由来	18) 上杉謙信 川中島ノ戦	(33) 甲越ノ戦	54 群雄ノ割拠
驕臣の事例			55 足利氏ノ滅亡
制度の由来			56 足利氏ノ制度
文化の由来			57 文学及技芸
文化の由来			58 宗教
文化の由来			59 外国ノ交際
文化の由来			60 生業
武勇の由来			61 風俗
武勇の由来	19) 織田信長	(34) 織田信長	62 織田信長ノ勃興及死亡
武勇の由来	20) 豊臣秀吉	(35) 豊臣秀吉ノ覇業	63 豊臣秀吉ノ覇業
武勇の由来		(36) 朝鮮征伐	64 朝鮮征伐
武勇の由来			65 関ヶ原ノ大戦及豊臣氏ノ滅亡
忠良の事蹟			66 織田豊臣二氏ノ政治
制度の発達 (由来)			67 軍制ノ沿革
忠良の事蹟	21) 徳川家康 22) 徳川家光	(37) 徳川氏ノ覇業 (38) 家康 家光	68 徳川氏ノ覇業
文化の由来			69 耶蘇教ノ禁
文化の由来		(39) 文学ノ興隆	70 文学ノ振起
忠良の事蹟		(40) 徳川光圀	
賢哲の事蹟	23) 徳川時代ノ学者	(41) 学者ノ輩出	
忠良の事蹟			71 吉宗ノ中興及寛政ノ治
国家の動乱 (事件), 忠良の事蹟		(42) 勤皇志士ト米艦渡来	72 外国ノ来艦
忠良の事蹟		(43) 薩長土ト大政奉還	73 大政奉還
文化の由来			74 徳川氏ノ政治及風俗
文化 (産業) の由来			75 人民ノ生業
忠良の事蹟			76 諸藩ノ事蹟
天皇の盛業	24) 維新	(44) 明治維新	77 王政復古
武勇の由来		(45) 戊辰ノ役	78 鳥羽伏見ノ戦
武勇の由来			79 奥羽函館ノ戦
忠良の事蹟		(46) 廢藩置県	80 廢藩置県ノ制
武勇の由来		(47) 台湾征伐	81 征韓論及台湾征伐
武勇の由来・忠良の事蹟	25) 西郷隆盛	(48) 維新ノ功臣	82 鹿児島ノ乱
制度の由来			83 朝鮮ノ変及内閣成立
制度の由来	26) 憲法発布 帝国議會	(49) 憲法発布及議會ノ開設	
文化の由来			84 近代ノ開明
事蹟の概要	27) 歴世沿革ノ概要	(50) 沿革概要	

[教育評論社編 (1892 : 108-110,161-167) より筆者作成]

高等小学校段階になると、取りあげる項目数が増加し、次第に事件史の性格が強くなっていく。高等小学校1・2学年でも、「奈良ノ都」「応仁ノ乱」など、人物を表題につけないものも増えてくる。また、項目も倍近くに増加する。さらに、天皇制国家に尽くしたというより、それに反した人物についても、言及が増える。尋常小学校段階でも、平清盛や足利義満など、天皇をないがしろにして専横を働いた人物が挙げられてはいたが、高等小学校段階になると、そのような人物の統治した時代も事件とともに教授するようになっていく。

さらに、高等小学校3・4学年になると、「神功皇后ノ三韓征伐」、「織田信長ノ勃興ト死亡」などというように、事件史として「日本の歴史」を描く性格が強くなっている。さらに、人物の事蹟で捉えきれない事象については、「中古の学制」「生業及び風俗」などとして「投げ込み」、日本の国家における社会・文化的な発達を取り上げる項目も増加している。

3. 歴史教科課程の内容編成論理

小学校教則大綱にもりこまれた歴史における内容編成視点としてのスコープは、建国の体制、天皇の盛業、忠良・賢哲の事蹟、国民の武勇、文化の由来である。また、これに当たらない事例として教授細目に挙げられた項目は、「驕臣の事例」「国家の動乱」というべきものである。この時期の歴史は、前述の8種類のスコープによって、日本史上の人物や事件が選択されている。歴史の内容が内容を構成されている。このことから、歴史におけるスコープは小学校教則大綱に依拠しつつ、事蹟の詳細を理解するうえで必要な驕臣の事例や動乱を補完したものといえる。

次に歴史におけるシークエンスは、2学年をかけて、建国から現在までの変遷を通史としてたどる構成になっている。また、通史をたどるときの項目を、学年が上がるごとに増やすことで、より詳細に国家の発展過程を捉えることができるような配列である。

さらに、そうした通史での事例の取り上げ方には、国家の発展過程をより緻密に認識することをねらうための特徴が見られる。それは、人物中心

の歴史から事件中心の歴史への変化が学年段階の上昇と軌を一にしてみられることである。

この歴史教科課程における事例に関する特徴の二点目は、同一の事例がくり返し取りあげられていることである。尋常学校で取り上げられた事例は必ず高等小学校でも取り上げられている。このように、同じ天皇や偉人の業績を複数回繰り返し取りあげながら、詳細化することで、日本の歴史の網羅的把握をめざし、国家公民としての資質の確実な育成をねらったところに、歴史教科課程の内容編成論理の特質がある。

V 教育課程確立期の社会系教科課程の特質

本稿では、日本における小学校教育確立期の「地理」「歴史」の教科課程の性格について、小学校教則大綱とそれに基づく教授細目の内容を分析しながら検討した結果、両教科目における教科課程の以下のような特質が明らかになった。

まず、地理の教科課程編成の特質は、①学校や郷土を事例とした地理的視点による理解に始まり、環境拡大原理ともいべき構成を採りながら日本や世界の地誌に至る総合的把握と、②文化や経済を重視した系統地理に連なる日本地理の分析的把握の二つのアプローチを併せた点にあった。また、内容を把握するための視点が、位置・地形・気候・産業など自然地理的事象や人文社会的事象を併せたものであった点にも特色がみられた。

歴史の教科課程は、教則大綱に定められた視点に依拠して人物・事件を選択し、それを通史として配列して国家の発展過程を明確にしたうえで、それをくり返し教える形で構成された。

両教科目の教科課程には、このような形で、教科内容に依拠した独自性が見られた一方で、共通性も見られた。それは、尋常小学校段階では概略を教授し、高等小学校段階で詳細化を図るという教科課程編成の段階である。

さらにいえば、その段階的な教科課程の展開は、内容の変化を伴ったものである。それは、地理の場合、学校や郷土に関する地理的事象の概略から、日本や世界の地誌という形への変化である。歴史の場合は、国家の発展に尽くした人物による通史

から、事件をも加えた通史の変化である。こうした変化は、扱う内容の網羅性を高める変化であり、それは同時に網羅的に詳しく分かる方向での成長を促す社会認識の育成論理をも内包している。

このような形で、地誌や通史によって、日本や世界の歴史を網羅的に理解させることで、日本という国家の正統性をより詳しく理解することができ、国家公民的資質をより確実に深く育てうる。

そのため、小学校教則大綱における社会系教科課程は、事象の網羅的理解が可能な高等小学校でのみ必修教科目となり、地理や歴史の網羅的理解を中心とする構造になったといえよう。

注

- 1) この時期の小学校は、4年制の尋常小学校との2年制と4年制の2種類からなる高等小学校があり、尋常小学校4年のみが義務教育であった。

引用文献

池野範男(2003)「戦前の社会的教科目の学力構造」角屋重樹研究代表者『学力構造に関する歴史的・比較教育的分析からの教科存在基盤の研究』平成12～14年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書, 30-39

岩田一彦(1992)「地理教育における『総合』の理論と実践—社会認識形成の視点からの歴史的考察—」全国社会科教育学会『社会科研究』第40号, 11-20

海後宗臣(1969)『歴史教育の歴史』東京大学出版会

教育史編纂会(1964)『明治以降教育制度発達史第三巻』重版 教育資料調査会

教育評論社編(1892)『小学校教授細目』文学社

小池民次(1893)『小学教授法』教育書房

小原友行(1992)「近代歴史教育成立期における小学校歴史授業論」全国社会科教育学会『社会科研究』第40号, 113-122

中川浩一(1978)『近代地理教育の源流』古今書院

水原克敏(1997)『近代日本カリキュラム政策史研究』風間書房

水原克敏(2010)『学習指導要領は国民形成の設計書—その能力観と人間像の歴史的変遷—』東北大学出版会

吉田太郎(1968)「明治前期(1872～1903年)における歴史教育方法の研究」『横浜国立大学教育紀要』第8号, 123-139

受付日 2011年6月25日

受理日 2011年6月25日